

3 個別がん対策の推進

(1) 小児がん対策

現状・課題

現状

- ・乳幼児から思春期、若年成人まで幅広い年齢に発症し、希少で多種多様ながん種からなる
- ・日常生活や就学、就労など、長期的な支援や配慮が必要

課題

- ・医療機関や療養・教育環境の整備、相談支援や情報提供の充実などが求められている。

推進方策

ア 小児がん治療の拠点となる病院を中心とした対策の推進

小児がん拠点病院の指定を受けた県立こども病院において、次の小児がん対策を実施する。

専門家による集学的治療の提供（緩和ケアを含む）

患者とその家族に対する心理社会的な支援

適切な療育・教育環境の提供

小児がんに関わる医師等に対する研修の実施

セカンドオピニオンの提供体制の整備

患者とその家族、医療従事者に対する相談支援等の体制の整備

イ 小児がん診療ネットワークの構築

県立こども病院は、地域性も踏まえて、患者が速やかに適切な治療が受けられるよう、地域の医療機関等との役割分担と連携を進める。

(2) 肝がん対策

現状・課題

現状

- ・肝炎対策協議会の設置
- ・肝疾患診療連携拠点病院の設置
- ・肝炎治療費の助成

課題

- ・全国値を大幅に上回る本県の肝がん死亡率の低減